

⑧ 11月18日（火）

衣食住、特に建築と僧衣の中國化

（1）寺を示すインド語と漢語

サンスクリット語 **vihāra** 逐語譯「園遊、居住」、漢譯「**寺**」

saṅghārāma 逐語譯「僧團の樂園」

音訳「僧伽藍」

漢語「寺」の原義「役所」

後漢 許慎『說文解字』：「寺，廷也。有法度者也。」

ガンダーラ僧伽藍（佛寺）タフティバイ Takhtibahi
パキスタン共和国ペシャーワル市 Peshāwar 北方



(2) 「ストゥーパ stūpa」

2.1 ストゥーパ stūpa/thūpa の音譯 (= 漢字音寫語)

「偷婆」「塔婆」……………パーリ語 thūpa

「蘇偷婆」「卒塔婆」「偷婆」「偷婆」……サンスクリット語 stūpa
意味は同一

2.1 ストゥーパの意味譯 (= 義譯)

唐 窺基『說無垢稱經疏』卷六 (T38, 1109b) :

「窣堵波」者，先云「浮圖，音訛略也，此云「高顯」。量闊四洲，上至梵世。上安表柱輪盤，傍設香華幡蓋，間以眾寶，供以伎樂，最為第一。

2.3 音譯・義譯以外の譯：「浮屠」「浮圖」「佛圖」「佛陀」等々

2.4 佛教新漢字「塔」の原義と用例

後漢 許慎『説文解字』無「塔」字。後，新附云，「塔，西域之「浮屠」。

「塔」は、佛教文獻の新漢字

新漢字「塔」：發音は「荅」で十分だが「土」を付して土砂で作ったことを表す

「浮屠」は「佛圖」「佛陀」「部多」「母駄」「沒陀」とも。

（ストゥーパを知らない人がストゥーパを見て、「あれは何だ？」と訊ねる。すると佛教徒が答えた、「あれはブッダだ（法身佛がいます靈廟だ）と。こうしてブッダ＝ストゥーパとなった）

「晉の頃，梵語の stūpa（卒塔婆）の音寫字として創作された。佛教關係の音寫字は音意兩訳のテクニックを凝らすものが多い。僧・魔もその例。（加納喜光2014）

ストゥーパ stūpa と 塔 tā



西北インド(Taxila)

高17メートル



中央インド (Sānchī)

高67m



中國 (應縣木塔)

高34m



日本奈良 (薬師寺)

インドの石造佛塔 ⇒ 東アジアの木造佛塔

東アジア佛塔は脆弱な木造で、インドより高層なのに、なぜ地震で倒壊しないのか

“心柱”是不倒秘訣

提到日本寺院中的古塔，就不得不提奈良法隆寺內的五重塔。該塔建于7世紀，是世界現存最古老的木結構建筑之一。歷經1400多年的歲月洗礼和多次嚴重地震，古塔至今屹立不倒。

法隆寺五重塔靠什么抗千百年来的地震災難？其內部的特殊結構功不可沒。法隆寺五重塔約重1200吨，每一層的塔檐向外延伸，其外伸寬度甚至能占到塔身寬度的一半。从塔底到塔頂，每一層塔都被中央的一根“心柱”貫穿，心柱不承受任何塔層的重量，塔的重量由心柱周圍的其他柱子承受。

每層塔檐的重量都不同，越向上越小越輕，强震來襲時，塔檐因為本身的質量會產生不同方向的橫向慣性。又因為每層塔身都“相對獨立”，一層安置在另一層上面，因此当第一層向右擺動時，第二層可能会向左，第三層可能会向右，各層交叉擺動消化地震帶來的冲击力，塔身則“像蛇一樣輕輕舞動”。

心柱是不讓古塔各層塔身“過于自由”的關鍵，充当着平衡器的角色。当塔身晃動較大時，心柱能通過与每層塔身的接触避免某一層塔檐橫向擺動過度引起的倒塌。如，当塔身向右側傾斜時，心柱會牽引塔身向左以保持直立。可以說，心柱是一个具有足够質量的“擺錘”，起到牽制的作用。

【參考話題 1】 現代高僧建築101 *from AI Overview*

「101」指的是台北101大樓，而「心柱」則是指台北101大樓內部鋼骨結構的核心支撐，它將大樓的重量從高處傳導至地面。

- 心柱 (Core structure)：指的是台北101大樓建築結構的「心臟」。

【參考話題 2】 現代日本の「卒塔婆」

西北インド(Taxila)



中央インド (Sānchī)
17m



中國 (應縣木塔)
高67m



日本奈良
(藥師寺)
高34m



日本佛教墓地
墓碑旁邊的
「卒塔婆」



(3) 「椅子」の傳來

J・キーシニック J. Kieschnick 柯嘉豪 (1998) (2003)

佛教傳來以前の古い時代、中國の漢民族は地に座り、その場所を「席」と呼んだ。椅子 chair は中國に存在しなかった。

椅子は四脚と座面を持つ。時に、背を凭れる背の部位もある。考古學で確認されている古い椅子は「胡床」か「胡牀」と呼ばれる。「胡床」の存在は、東魏武定元年（西暦543年）の造像碑に同定できる。

「胡」字は、椅子が西方地域を起源とすることを示す。西方とは中央アジアをさすが、隋唐以前の魏晉南北朝時代は、「胡語」と「梵語」

を區別しなかった。従って「胡床」はインドを起源とした可能性もある。

唐代の景教（キリスト教一派。Nestorianism）の畫像にも同様の胡床が描かれている。しかし景教傳來より以前に胡床と結びついていた外來文化はインドの佛教であった。それ故、胡床はインドから中國に傳來したと考えるのが合理的である。

實際、インド佛教の出家教團生活規則を定めている『律』（vinaya）には椅子の使用法が定められている。さらに「繩床」「繩牀」という語も六朝時代の佛典に頻出する。

以下にその例を二つだけ挙げる。

若比丘僧重閣上尖脚繩床、木床，用力坐臥，波逸提。（『五分律戒本』 T22, 197b）

比丘が階上で足の尖った縄編みの座席や木製の座席に座ったり横臥したりすれば、波逸提罪を犯す。

若在重閣上，脱脚繩床若木床，若坐若臥，波逸提。（『四分律戒本』 T22, 1035a）

比丘が階上で脚の外れた縄編みの座席や木製の座席に座ったり横臥したりすれば、波逸提罪を犯す。

他にも中國漢文化において椅子が外來の輸入品であったことを示す原文資料は多い。中國佛教がインドからの輸入品に溢れていた様子を知りたい人には、キーシニック Kieschnick（2003）の精讀を奨める。

器物的象徵：佛教打造的中國物質世界

[The Impact of Buddhism on Chinese Material Culture](#)

作者：柯嘉豪 John Kieschnick

譯者：趙悠, 陳瑞峰, 董浩暉, 宋京, 楊增

出版社：遠足文化 2020/12/23 繁體中文



【參考話題 3】 中國餐桌上的轉盤之淵源是在中國？
還是英國 Dumbwaiter, 美國 Lazy Suzan,
也還是在日本東京的目黑雅叙園？

